

# 主張

グローバル経済を牽引してきた英米を中心とした株主重視、市場万能主義に偏った企業経営が大きな転換期を迎えている。株主価値を上げるために、短期的な利益の追求を最重要視した結果として、雇用を不安定にし、地域社会との関係を悪化させるような経営に疑問が投げかけ

## 道を究めた達人から学ぶ

られている。そのような中、短期利益の追求だけではなく、社会に新たな価値を継続的に創造し、雇用を維持、拡大し続けるという日本型の企業経営が見直されている。

経営学の泰斗の野中郁次郎氏は、これからの時代を担うリーダーに求められる能力として、「善い目標をつくる能力」「場づくりができる能力」「現場で本質を直感する能力」「直感した本質を概念

化し表現する能力」「概念を実現する政治力」「賢慮を伝承・育成し、組織に埋め込む能力」の六つを唱えた。

これらの教えに学び、日本生産性本部では、MBAと一線を画した経営者養成講座「Art Of Management Program」を2013年から開講している。道を究めた経営者や日本の伝統文化を継承してきた各界を代表する匠から直接薫陶を受けるプログラムである。

先達が語る言葉に真新しいものはない。「会社は永続しないと価値がない」「世のため人のための仕事をして儲ける」「凡事徹底」「和敬清寂」など、至ってシンプルだ。幾度の困難を乗り越えてきた先人の言葉には重みと覚悟があり、古典に通じる。共通しているのは会社を社会の公器として捉え、社会を豊かにしなければならぬという強烈な使命感だ。社会の豊かさは、社会的弱者を思いやる

愛情や利他の心に裏打ちされた、魅力あふれる人間力をリーダーがどれだけ持つことができるかで決まる。人類や文明が目覚ましい発展を成し遂げてきた現在でも人間の本质が変わりはない。ステイブ・ジョブズをはじめ世界的な経営者が本質の大切さに気づき、禅などの日本の伝統文化を体感し、その考えを経営に生かしてきた。日本の伝統文化には本質が宿っている。世界が日本に学ぶうとして

いる。英米型の資本主義が大転換期を迎える中、論理的な思考とともに人間の本質とも言える五感を刺激することが企業経営には極めて重要である。わが国の伝統文化、日本人が持つ美徳を経営に生かすとともに日本の経営の良さを現代版にアレンジし、豊かな社会を実現する日本発のモデルを提示、実践できる経営者が輩出されることを期待してやまない。